

## 2. 特別策定委員 服部幸應氏との市長対談、講演会の開催

松戸市は、食育推進計画策定にあたり、食育推進委員会を設け検討を重ねるうえで、食育の第一人者である服部幸應氏に特別策定委員を依頼しました。服部氏は、17年前より食育の必要性を訴え、8年前には「21世紀の栄養・食生活の在り方検討会」（厚生労働省）の中で、知育・徳育・体育に「食育」を加えることを提案しました。また、平成17年施行の「食育基本法」ではアドバイザーとして法案策定に協力しました。平成19年11月11日に、服部幸應氏と市長が食育をテーマに対談を行い、計画づくりへのアドバイスをいただきました。また、平成20年2月7日に開催した食育推進イベント「食のウインターフェア in 松戸」では、「伝えていきたい 食育の大切さ」と題して講演をいただきました。

### ①市長対談

#### ●服部氏の考える食育とは？

日本は、いま生活習慣病が増え、死亡原因の64.8%を占めるまでになっています。また、61%もの食べ物を輸入しながらその3分の1を残飯として捨てている日本は、世界の食料事情にあまりに関心です。家庭の食もおろそかになり、その問題は、こどもの心の部分にも及んでいます。健康を維持する食べ物をきちんと選ぶ力を身につけ、親は食卓で作法やマナー、正しい食習慣をしつけることで健全な精神やモラルが育つのです。これらは、子どもたちが健やかに成長し、健康に生きてゆくために必要です。



私は、「食育」の基本は、1. 選食力をやしなう 2. 食事作法を身につける 3. 地球の食を考えるの3つからなっていると考えています。松戸市の食育推進計画にも是非取り入れていただきたいと考えています。

## ●現在、「食育」で大事だと考えていることは？

なんと言っても家族で楽しい食卓を囲むこと。近頃では家族そろって夕食を食べる家庭が3割しかないそうですが、家族みんなで食卓を囲めばそれだけ豊かな気持ちになるものです。そして、食卓で食事の作法をきちんとしつけることでモラルのある人格が生まれます。

## ●今後、食育を通して行いたいことは？

実は、食に関する法律がある国は、日本だけで海外からも「食育基本法」が注目されています。松戸市は、もったいない運動を推進しているとお聞きしました。「MOTTAINAI」のように「shoku-iku」の考え方が世界に広まればよいと考えています。

## ②講演会「伝えていきたい 食育の大切さ」

講演のなかで、服部氏は、食育の大切さを具体的な数字をもとに話され、多くの参加者が、最後まで熱心に耳を傾けました。日本ほど食事の際にテレビをつけている国はなく、子どもはもちろん親も食事の際にテレビに夢中になり、子どもと向き合う大事な機会を逃していることを話されました。また、動物の子どもは、えさのとり方を親から教えられ、独り立ちをしますが、現代の日本では、子どもの独り立ちがなかなかできず大きな社会問題になっていることを例にとりながら、食を通じた人間形成は、ますます重要と話されました。家庭、学校、地域、社会と幅広い領域における食育の展開を広めていく必要があると話されました。

